

# (介助の中で) みんなと行動しようとする子

田 中 信 子

## 1. 対象児のプロフィール

生徒名 ・ K・M (女) 昭和50年10月19日生 (中1)

- ・難治性てんかん (レンノックス症候群)
- ・本校小学部より入学
- ・遠城寺式乳幼児発達検査

項 目	移動	手の運動	基本的習慣	対人	発語	言語理解
発達年齢	2:9	2:9	3:4	1:4	2:3	1:2

### (1) 一般的特性

- ・身辺自立が確立しておらず身辺処理全般に介助が必要。
- ・こだわりが強く教師の指示に従って行動できないため集団生活ができにくい。
- ・多動で落ち着きなく興味が持続しない。
- ・頭が重く足が小さく身長141.5cm 体重47.5cmで肥満である。  
体重が支えにくくよく転ぶ。
- ・てんかん発作がありほとんどしゃべらない。

### (2) 問題点および取り上げた理由

自分勝手な行動が目立ち、みんなと一緒に行動ができない。教師の指示でも勝手気ままな行動をするので、常に介助が必要である。食べて動かないから、太るばかりで運動も嫌いである。ほとんどしゃべらない。物事に強いこだわりを示すことがある。

- そこで
- ① 教師の介助のもとで、体力づくりに取り組ませる。
  - ② できる限りみんなの中で動く。
  - ③ 家庭との連携で肥満解消 (食生活の改善) と取り組む。

など、からだづくりの中で少しでも友だちと一緒に過ごせるようになると考えて研究と取り組んだ。

## 2. 取り組みの構想

研究に当たっては、次のような指導方針により取り組むことにした。

- (1) 衣服の着脱・歯みがき等基本的な生活習慣の確立をめざして反復訓練し、介助から援助そして自主的にできるようにしたい。
- (2) 家庭との連携により肥満の解消。
- (3) 朝の会・体力づくりでの自主的な行動を多くし、生活リズムの確立を図る。
- (4) K・M児の好きな音楽や絵本を通して、まず教師とのコミュニケーションの確立を図る。

## 3. 取り組みの経過

### (1) 基本的な生活習慣の確立

4月当初は排尿の失敗も多く、衣服の着脱も教師にしてもらうのを待っていたが、声かけや、できることはするまで待ったり、よくできたときは賞賛するなどを繰り返し指導してきた。現在では排尿の失敗も少なく衣服の着脱も自分から少しはやろうとしだし、できないところを援助してやっている。

気分のむらが見られ、教師がてんかん発作を心配しているようすを察知してわがままになることが多い。よりきちんとした指導を心がけていきたい。

### (2) 食生活の改善

4月の発育測定の結果、ローレル指数177 体脂肪率34.2%と高く、行動にはりがなくゴロゴロしていた。そこでまず肥満の解消へ目を向けて給食指導を試みた。K子は自分の好きなものは頑として手に入れようとし、嫌いなものは食べようとしなかった。特に牛乳が大好きで最初に飲んでしまうという傾向があった。そこで牛乳は少しずつなるべく後に飲ませるようにした。

今は好き嫌いなくだいたい食べるようになった。

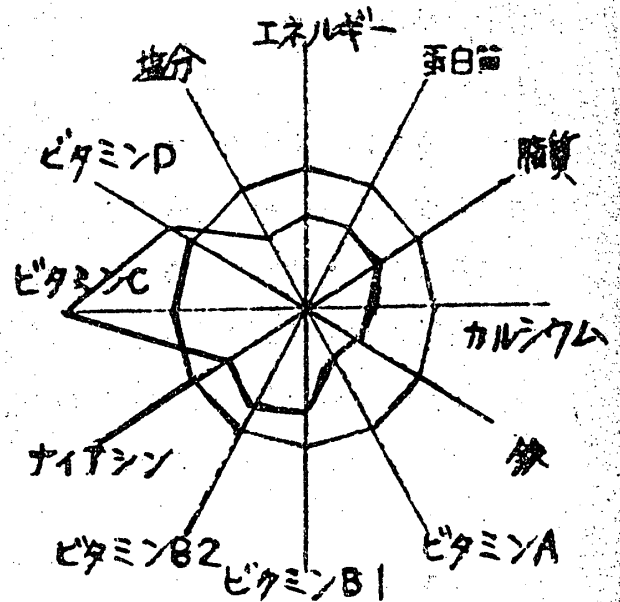
専門家による食事指導、家庭の食事の記録とカロリー計算、保護者との話し合いをもった。その結果少しずつではあるが保護者も子どもの食生活に関心を

待つようになってきた。しかしまだ成果が見られない。

月	4	5	6	7	9	10	11
身長	136.7	140.8	140.1	141.3	141.5	143.0	143.5
体重	45.2	45.8	46.8	45.8	47.5	47.8	47.8
BMI指数	177	164	170	162	168	163	161

月	12	1	2
身長	143.7	144.0	145.0
体重	49.4	50.2	50.2
BMI指数	166	168	164

栄養所要量レーダーチャート



発育測定の結果

### (3) 生活リズムの確立

#### ① 朝の会

授業と睡眠時間の関係だと思うが、朝の登校時は完全に目覚めていない。そこで「朝の会」の活動にはゆっくり取りかからせ、今月の歌では歌うことを中心にして、楽しい雰囲気の中で次第に元気をもつようにしている。

1学期はあまり反応を示さなかったが、最近は調子の良い時は、「どこでしょう」では手の指を使って反応するし「ひげじいさん」ではまねをしているし「野わすみの歌」では1、2、3、5と指を出してリズムに乗って楽しそうにするようになった。一日の生活を体で覚えさせようと繰り返し、取り組んできた。

## ② 体力づくり

サーキット運動・ボール運動・リズム運動と目標をもって振り返りの指導の中で行なってきた。はじめは自分の好きなことをしたくて、集団の中に入るのを嫌がっていたが、最近は自主的な参加も少し見られるようになってきた。

特に5分間走では介助から援助へ、援助から自分ひとりでと良い結果が見られる。サーキット運動でのブロックを渡すことは、カラーブロックの色が楽しいこともあり大好きで集中力と根気強さを育てるのに良かった。

また、トランポリンでの指導は肥満解消のために効果があると思うので続けていきたい。

てんかん発作が運動中より運動後におきやすくなるので、学習が終わった後に軽いボール投げや平均台渡りなどをさせて自由に遊ぶよう心がけてきた。

## (4) コミュニケーションの確立

K子は絵本や音楽が好きなので長休憩や短休憩に歌を歌ったり、絵本と一緒に見たり、カード遊びをしたりして心を通じ合わせる努力をした。

肥満の解消のためには体を動かすことも大事なので自転車乗りや三輪車乗りも積極的にさせた。好きなことは休憩が終わってもやめようとしなかったが、最近ではある程度教師の指示に従えるようになってきた。友だちとも遊びをとおしてかかわっていきつつある。

## 4. 考察と今後の課題

K子のわがままをおさえて、みんなと行動しようとする子をめざして取り組んだ。衣服の着脱、体力づくり、K子とのレポートをとることに少しずつ成果が見られたが、まだ満足のものではない。

今後も体づくりを第1に考えていきたい。そのために家庭との連携をさらに密にしていかなければならないと思うのである。

その上で次の点を来年度の具体的課題としたい。

- ① 主治医との連携も強化し、医学的側面からの問題解決と取り組む。
- ② 肥満の原因となっている食生活の改善をはかる。家庭での食事のあり方を保護者の理解を得て改善する。
- ③ 本児のからだ作りの成果を、どう日常生活の取り組みと結びつけ指導効果をあげるか